

栄養学部



学部長 小西 康子

管理栄養学科所属  
担当科目：生化学概論、生物有機化学、生体分子代謝学、食品機器分析化学実験

栄養学部では、「食と健康」に関する様々な課題を共に理解・追求し、実践的な分析と解明につながる専門的な知識・技術を学びます。子どもから高齢者まで、市民一人ひとりに対する生涯教育としての食育を広く指導・普及させる栄養の専門家、介護予防や臨床栄養学など医療面での実践的な栄養の専門家をめざします。「食」を軸とした学びを通して、美味しさ・楽しさ・嬉しさを追求し、新しい知識やスキルを積極的に吸収し、同じ志を持つ仲間たちと協力して成長することで、より豊かな学びの経験ができるでしょう。「食」の未来に向かって一緒に進んでいきましょう。



栄養学科長 鍋谷 浩志

担当科目：食品加工学、食品加工学実習、食品加工学(実習を含む) 他

超高齢社会に入り、健康寿命の延伸が求められています。健康長寿の基本は、バランスの良い栄養摂取であり、その実現を支える栄養士の役割は、これまでも増して重要となっています。

また、持続的に発展可能な社会の実現にも配慮しつつ、美味しく、そして安全な食品の安定供給を可能とする取り組みも、これまで以上に強く求められています。

こうした食を巡る情勢に対応するため、物事の一面だけを見るのではなく、全体を俯瞰してながめることで、本質を的確にとらえた対応のできる栄養士を育成し、健康で豊かな食生活の実現に貢献したいと考えます。



管理栄養学科長 田中 寛

担当科目：臨床栄養学総論、栄養療法論、  
栄養療法実習、臨床栄養学実習 他

広報誌などで100号のご発行、誠にありがとうございます。

国家資格である管理栄養士免許取得者は、様々な職場や職域で働くことになり、そのお仕事は一人で完結できるものではありません。そのため、一緒に働く方やチームメンバーなどとのコミュニケーション能力はとても重要なスキルとなります。また、ご卒業後は、自分自身で積極的に新たな知識や最新情報を学んでいくことも重要であり、基礎知識を習得した後は職場に応じた専門性を身につけることや課題発見・解決力、社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)も踏まえ、引き続きしっかり対応できる人材を養成して参ります。



児童学部



学部長 岩崎 美智子

児童学科所属  
担当科目：子ども家庭福祉、育児支援研究 他

学生のみならずのご入学・ご進級、また、広報誌「なでしこ」の100号、誠にありがとうございます。

児童学部は、2023年4月にスタートしたばかりのフレッシュな学部ですが、児童学科や児童教育学科(初等教育学科)を卒業した先輩方は、全国の保育所、幼稚園、児童福祉施設や小学校でたくさん活躍しています。一人ひとりの子どもを理解し、「その子にとってもっともよいこと」をめざして保育・教育を創造すること、社会の動きをとらえて子どものニーズを見逃さないことが児童学部の教育の特徴です。「今を生きる子ども」について、いっしょに考えていきましょう。



児童学科長 榎沢 良彦

担当科目：保育原理、子ども理解と援助、基礎ゼミナール

私はいつも学生の皆さんにとっての幸せとは何かを考えています。皆さんの要望(免許・資格の取得)に応えさえすれば、青年期の教育者として責任を果たしたことになるわけではありません。大学教員には、皆さんが自分に誇りを持ち、社会で信頼されて生きていけるように教育する責任があります。つまり、人間教育が大切なのです。そのために、私は目先の利益に目を奪われて情に流されてしまうことなく、皆さんの長い人生を見据えて、どうすることが皆さんの幸せに繋がるかを考えて教育に当たっていききたいと思っています。



初等教育学科長 半澤 嘉博

担当科目：特別支援教育研究、障害と教育、  
教育課程論 他

児童学部初等教育学科となり2年目を迎えます。学科の指導体制を充実して、実践的な授業力や学級経営力に優れた教員の養成に努めていきます。

現在、学校教育には不登校やいじめを始め多くの課題がありますが、教員という仕事は未来を担う子どもたちとの直接的な関わりをもてる魅力的な仕事であり、女性の活躍の場としても恵まれていると考えています。

しかし、子どもたちや保護者、地域から信頼される教員となるためには、教員としての資質・能力を高めていく学修が重要です。

私たちは皆さん一人ひとりの応援団ですので、自分の夢の実現に向けて一緒にがんばっていきましょう。



入学・進級おめでとうございます

令和6(2024)年度  
学部長・学科長メッセージ

家政学部



学部長 兼古 昭彦

造形表現学科所属  
担当科目：映像メディアアート、メディア総合表現、実習基礎A

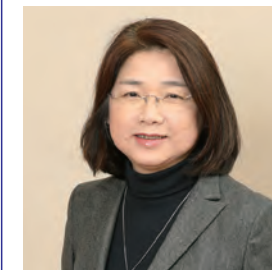
家政という名を冠する本学で学ぶ皆さんは、将来、どのように日々の生活をデザインしていくのでしょうか。このデザインという言葉は現在、さまざまな場面で聞かれますが、皆さんはこの言葉にどういった印象を持っているでしょうか。デザインという単語はそれだけで「良い」という意味を伴っているようにも感じますが、生活の質を向上させるといった目的で日常をデザインするということから何が起きるか、想像してみてください。皆さんが社会の中でやりがい・充実感を得ながら働き、自分らしく日々の生活を送れるように本学で成長してほしいと願っています。



服飾美術学科長 田中 早苗

担当科目：アパレルCAD I・II、アパレル生産実習、服飾造形III

服飾美術学科は、1881年に校祖が開学した『和洋裁縫伝習所』の直系の流れを汲む学科です。明治・大正・昭和の時代に、本学の卒業生が日本全国に学校を創設し、裁縫を生業とする多くの女性を支えて参りました。現在は、服飾を科学とファッションの両面から捉えて素材や品質管理・伝統文化・デザインなどを学び、その知識と技術を繊維アパレル業界のアドバイザー・クリエイター、学芸員・家庭科教諭など服飾に関連する仕事に活かしています。社会の慣習や気候変動によって変化する未来の衣生活とファッションをいっしょに研究し創造していきましょう。



環境共生学科長 宮本 康司

担当科目：サイエンス基礎実験、  
環境教育実践演習、行動学実験

環境共生学科は、環境教育学科から学びの幅を3つの領域へ大きく広げ、今年度スタートいたしました。「暮らしと環境」では、生物学・化学をベースとして技術力を養います。「自然との共生と環境教育」では、地球の仕組みを理解し教育力を育みます。そして「持続可能な共生社会」では、データサイエンスや経済学も取り入れ社会科学を扱います。今や「SDGs」は合言葉となりましたが、各目標の真の実現のためには、その背景や原因を多方面から理解でき、解決策を創出できなくてはなりません。自分を豊かに、そして社会を豊かにできる人材育成に邁進して参ります。



造形表現学科長 手嶋 尚人

担当科目：住環境デザインI・II、  
こども環境デザイン、基礎造形

大学時代は人生において4年間という短い期間ですが、とても大切な時代です。高校までと圧倒的に違うのは卒業後には社会人になるということです。大学生生活を最大限に楽しく過ごすことはもちろんですが、大学カリキュラムでの多くの様々な課題と向き合い、それに加え、グループ展やボランティア活動、社会連携活動等の社会での実体験を通してクリエイティブ力という皆さんの好きな興味関心のあることを社会に出てからの強みとなるように、そして、同じ方向性を向く仲間をつくり共に活動して下さい。とても大変なことですが、大変だからこそ達成感があり喜びがあることを体感して下さい。

